

# 第1回懇話会(5/23)で示された視点

## 資料1

- ①育てたい子ども像    ②幼児教育・保育の実践    ③保幼小中の連携    ④地域・家庭との連携    ⑤質の向上

### 育てたい子ども像

(子どもに育てたい力、気持ち)

- ・主体性の尊重
- ・自己肯定感
- ・コミュニケーション、社会性
- ・学びに向かう力    ……他

第1回作業部会(5/26) → P2にまとめ

### 幼児教育・保育の実践 (内容的なもの)

- ・主体性の尊重
- ・環境
- ・遊び
- ・5領域
- ・安心、安定
- ・発達
- ・生活、行事
- ・舞鶴オリジナルの保育実践

第2回作業部会(6/23) → P3にまとめ

### 今後の方向性 (方法や方向)

- 保幼小中の連携～接続期の教育・保育
- 家庭・地域との連携～幼児教育・保育の専門職として、保護者をパートナーとして～
- 質の向上～質の高い幼児教育・保育～
- 保育園、幼稚園、行政、家庭、地域の役割

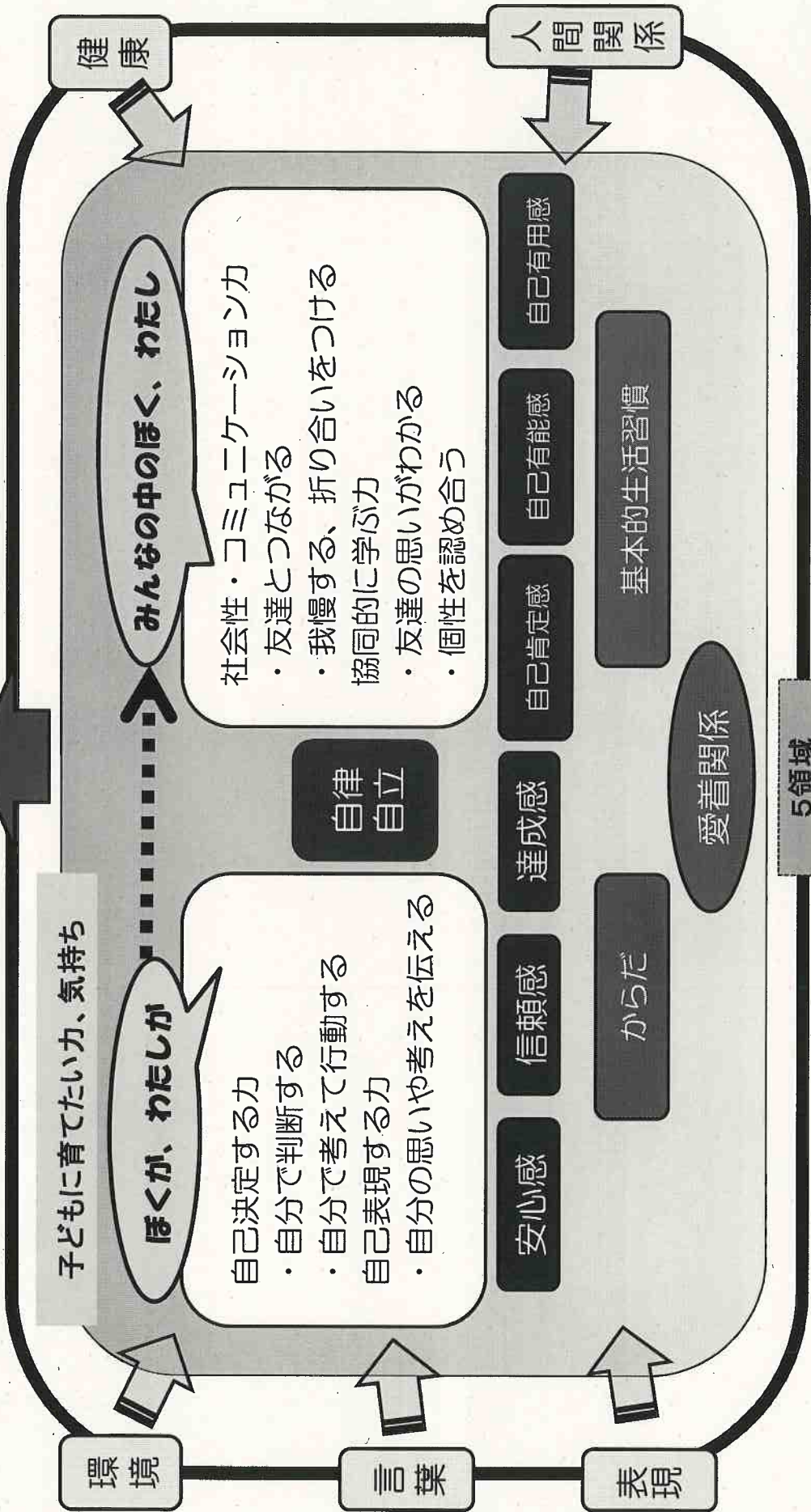
第3回作業部会(7/6) → P4にまとめ

育てたい子ども像

意欲的・主体的な子ども  
夢中になって遊び込める子ども  
自分も友達も大切にできる子ども

舞鶴が好き

遊びや体験を通じて



学びに向かう力を育てる

5領域

# 幼児教育・保育の実践で大切にしたいこと

## 【主体性の尊重】

- 受け止める ほめる
- ありのままを認める「たった一人のかけがえのない存在」「あなたはあなたでいいんだよ」
- 子ども一人ひとりを理解する
- 自分のことが自分でできる喜びを感じられるようにほめる
- 声かけが自分からやりたい気持ち尊重する
- 自分で気付けるように、ヒントを与える
- 自分たちで考えるきっかけづくり
- 言い過ぎない、答えを言わないで待つ
- 大人の勝手な期待ではなく、子どもの意欲に沿った目標を子どもと一緒に見つけ応援する
- 個性を認め、伸ばす
- いいところ、得意なところを見つけ、伸ばし、自信を持たせる
- 「自分ではできない」「この子はできない」というイメージの定着を避けたり、固定概念を覆すよう働きかけ
- 違っている、いろいろな子がいて楽しい、一人一人の違いを認める
- 社会性・コミュニケーション（友達に認めてもらう）
- 大人が子どもの話や思いに耳を傾ける
- 集団の中の一人として認識し、人とかわる経験を積む
- ルールを自分たちで作る、守る
- 自分の思いや考えを話したり、相手の思いを聞いたり、話し合いの機会を持つ
- 自分の考えたことを伝え、受け入れてくれる集団づくり
- 発見したことや行動したこと、みんなの中で認められるように周りに発信する
- みんなの中で役立つ自分や、やればできる自分を感じられるように一人一人にスポットを当てる
- けんかやトラブルをチャンスととらえ、相手の気持ちに気づき、良いこと悪いことを判断する機会にする
- 言えて良かった、相手がかかってくれたという思いを育てる
- 大人がモデルになり、あいさつ、マナー等を示す

## 【保護者に発信】

- 乳幼児期に大切にしたいことや発達を発信することで、理解も深まる（発達等の他、大人と子どもとの感じ方の違い、子どもの気持ち等）
- 今後起こりうるトラブル、けが等…事前に知らせることで保護者も見通しが持て、安心につながる

## 【安心・安定】

- 信頼できる居場所
- 信頼されていると感じられるように見守る
- 失敗も認める「失敗しても大丈夫」「間違えてもいいんだよ」
- 大人との信頼関係を築き、安心して何でも言える雰囲気づくり
- 家庭の安心
- 反抗期に反抗できる…受け止めてもらえらる家庭
- その子やその家庭にあったつながり、必要な（ふれるべき）時に触れあう。
- 時間が短くても親が子に好きな気持ちをしっかり伝える。

## 【環境】

- 子どもの興味や関心を基盤とした意図的な環境
- 自然を取り入れる

## 【遊び】

- 夢中になって遊びこむ
- 繰り返し遊び⇒遊び込む⇒新たな発見
- 目的を持って遊べる 今日があつて明日につながる見通しを持って遊ぶ

## 【体験】

- 時間の制約が少ない乳幼児期こそ、時間にとられない遊びや体験を重視する
- 失敗した自分を認め、次へつなげるために見守る
- 自分で「できた」みんなで「できた」という成功体験
- 実際に見る、触る、聞く、におう、食べる…五感を使った直接的な体験

## 5領域

それぞれの子の興味や関心に合わせた活動の中で目的やねらいを達成していく

環境を通じた遊びや体験

## 発達

年齢・発達に応じた活動

## 【行事】

- 行事に追われるのではなく、子どもたちで考えたり、試行錯誤する時間を持つ
- 出来栄が重視される、保護者に見せるための行事ではなく、子どものための行事になるように
- ※園や保護者の理解が必要⇒保護者に発信していく

## 【連携】

- 保幼小連携（年長児と1年生とが生活科を通じて交流）
- 保幼小中連携（避難訓練、家庭科、職場体験）
- 家庭・地域とのつながり
- 親・地域・幼・保が一体となって、規範意識を育てる

## 【その他】

- 体力、耐力
- 意欲 ※保幼小中すべてにおいて重要
- 保護者や地域への発信は、各園からと合わせて行政からも行うことが必要

## 【舞鶴オリジナル】

- 舞鶴が好き、市外に出た時舞鶴について語れる大人になってほしい
- 地域の人・物・場所・自然とふれあう体験（ふるさと活動）

## 今後の方向性 (方法や方向)

### 保幼小中の連携

- ・各地区ごとの保幼小中の連絡会議
- ・異年齢のつながり
- ・保幼小中の指導者の交流・情報交換、研究会の実施
- ・それぞれの「ねらい」を持つ
- ・生活科で招待して終わるのではなく、互恵性のある活動にする
- ・先生同士のつながり（話し合い、学び合い、相互理解が必要）
- ・年間を通じた交流・計画づくり
- ・避難訓練、職場体験、家庭科の授業等を通じて、中学生・小学生が保幼とふれあうことで、相互に効果（小さい子とふれあう機会、必要とされ頼られる自分、憧れの気持ち…）
- ・保幼小が日頃から子どもたちの様子やお互いの（の取り組み）を知る

小学校以降を見通した保・幼で育てたい力は何なのか？

### 幼稚園・保育園と家庭・地域の連携

- 保護者とオープンな関係性を築き、パートナーとして共に歩む
- ・保護者同士が関わる場を意図的に持つ
- ・保護者同士をつなげる仕組み、工夫
- ・懇談会等話し合う場の充実
- ・園に関心を持ってもらう工夫～保護者を巻き込んで～
- ・親を育てる
- ・保護者へ結果ではなく、過程を伝える（ドキュメンテーション）
- ・保育中の発達や学びを可視化し伝えると共に保護者の悩みを聞く
- ・同じ校区、地域みんなで行える活動を取り入れる（あいさつ、ノーテレビデー等）
- ・地域や民生委員と連携して、保護者の交流の機会の提供

### 質の高い幼児教育・保育（質の向上）

- ★幼児教育・保育の実践で  
大切にしたいことすべて・・・
- ・人材育成…知識や経験値を継承していく
- ・人的な環境を整える
- ・研修（公開保育、園内研修、外部の研修…）
- ・研究会参加
- ・現場の先生が話せる時間を確保する

### 幼稚園・保育園・小中学校、行政、家庭、地域の役割

- ・啓発
- ・子育ての相談
- ・人材育成（研修の実施他）
- ・可視化、情報発信
- ・保護者向け子育て講演会
- ・支援の必要な家庭への働きかけ
- ・教育・保育関係者の研修・研究・交流会の開催（行政）